



No. 109 2021.5.17

明石市コミュニティ・スクールだより
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクス

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課



コミスク TwitterQR

Zoom で学級懇談会

コミコミスクス第 108 号で研修会の様子をご紹介させていただいた「Zoom で学級懇談会」が朝霧小学校で次の日程で開かれました。

5月11日 15:00~15:30 1年 15:30~16:00 3年 16:00~16:30 5年

5月12日 15:00~15:30 2年 15:30~16:00 4年 16:00~16:30 6年

1・2年、3・4年、5・6年がチームとなり、11日には偶数学年が奇数学年のサポート役として、12日には奇数学年が偶数学年のサポート役として、画面の確認やトラブルが起きた場合のヘルプ役として待機するという支援体制を組んだり、日にちや時間をずらすことによって兄弟関係にかかわらず参加しやすくするなど工夫されています。一斉におこなうよりも時間はかかりますが、サポート役がそばにいるのは心強く感じるだろうなと思いました。また、互いに見学し合えるのもこの時期には必要なんだろうなと感じました。

学級懇談会では担任の自己紹介から始まり、教室の後ろの掲示等教室の様子をカメラ越



しに感じていただけるよう工夫したり、動画やプレゼンを画面に写しだし学級の様子を紹介したり、今年一年の学級経営について説明したりと各クラスの個性を感じることができました。中にはロイロノート画面共有し、ロイロノートの活用場面等を具体例を出しながら紹介されているのを見て、こうしたことを保護者や地域の方にも体験してもらうことが、これからの教育を学校・家庭・地域と一緒に考えていく一歩になるんだろうなと思いました。朝霧の校長先生・教頭先生もすぐに、コミスクとしてロイロノートなどの体験会を計画できたら面白いなといわれていたので実現するのではと楽しみにしています。

そして2年目の先生、初任の先生にとって、初めての学級懇談会であったわけですが、その初めての学級懇談会がオンラインというのが、大きな変化の波を感じさせられました。朝霧小学校は昨年が50周年でしたが、この50年間、毎年学級懇談会が持たれ、方法等も変化なく繰り返されてきましたが、51年目はオンラインという新たな方法で学級懇談会が開かれたということは、なかなか動かなかった学校が、なかなか変われなかつた学校が、いよいよ動き、変わり始めたのではと感じました。本番を終えた先生方からは安堵とともに、どっと疲れた様子がうかがえました。大きな一歩、朝霧小学校の先生方、ありがとうございました、そしてお疲れさまでした。

5月14日には松が丘小学校でZoomの接続訓練を兼ねた、担任の自己紹介に、5月18日～26日にかけて明石小学校ではオンラインでの授業参観に、チャレンジされます。すでに授業等で活用されている学校も多いと思いますが、保護者の方にもオンラインという形でICTでの変化を実感してもらう場を持つことも「教育課程を開く」ということにつながるのではと考えます。

見ていてビックリ！！ 自然に始まる学び合い

子どもたちがiPadをさわっている所、それも初めてさわるところを見てみたいと思っていたところ、松が丘小より、子どもたちがiPadにさわるXデーが決まったと情報を頂きました。12日に1・2校時と3・4校時を使って子どもたちに配るということで、1・2校時に子どもに配りさわってみる4・6年生を中心にきてきました。前日11日に松が丘小のある先生が急に休みをることになり、急遽自宅と教室をオンラインでつないで、一日の予定を伝え、子どもたちと少しやりとりをしたというサプライズがあったようで、子どもたちは楽しみにしていたようです。またそのサプライズは子どもを通じ保護者に伝わり、保護者も関心を持たれていたようです。

4年生の子も、6年生の子も、担任の先生から注意事項を聞いた後、自分のiPadを受け取り、大切に両手で抱きかかえて自席に戻る姿、自席でさわっているのか悪いのかモゾモゾする姿など6年生も4年生も変わらずとても微笑ましかったです。そこで見ていてびっくりしたのがその後でした。最初は一斉型の説明で、へそ曲がりの私は「いつまで説明しとんねん」と思っていました。先生のiPadとの接続が完了し、担任の先生が「先生のところにお手紙でも、絵でもいいから送ってね」と学びの主導権を子どもたちに渡した瞬間から子どもたちの目の色が変わりました。子ども同士、「こんなこともできるで」「それど



うやんのん」「教えて」「見つけた」といった声があちらこちらから聞こえてきました。そして「〇〇くんから手紙が届きました」「〇〇さんから絵が届きました」と先生が報告すると、当事者の

子どもは手をたたき、周りの友だちとハイタッチと大喜び、そして「どうやったん？教えて！」と引っ張りだこです。そんな輪があちらこちらに広がりながら、先生からの報告を待ちきれずに、先生のiPadを覗き込み、自分のが届いているのを確認してまた大喜びといった状態でした。そんな子どもの様子をみながら、自分がテーマをもち、学びの主導権を自分が持った時、「主体的・対話的で深い学び」が始まり、そこには「学び合い」が生まれるんだと感じました。「学び合い」はつくるものではなく、生まれてくるものだ実感しました。こうした子どもが学びの主導権を持った学びの場が未来を創り社会を支える子どもたちの資質・能力が育つ場になるんだと思いました。こうした学びへの転換を丁寧に説明することにより、学校・家庭・地域が目指すゴールを共有することにつながるんだろうな感じました。こんな学び合いが生まれる場を創っていきたいですね。（文責：北本）